

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 29～令和 4 年度)

代表機関：金沢大学（総括責任者：山崎 光悦）

共同実施機関：富山県立大学、YKK株式会社

## 取組の概要

金沢大学は、女性研究者研究活動支援事業でHokuriku Women Researchers' Networkを築き、様々な支援を行ってきた。その取組の中で環境整備や研究力向上だけではなく、女性リーダーを育成し、その活躍や上位職登用の過程を若手研究者に知らしめる面的な取組が重要であるとの認識に至った。よって、本取組では多様なものづくり産業が集積し、女性研究者・技術者の活躍が益々求められる北陸地域において、「女性人材育成と活躍の好循環」を形成する。

具体的には、大学院産学連携講座を核として研究力向上施策によるキャリアアップ支援、ライフイベントの状況に応じた実効性の高い支援を行う。また各機関における意欲的な女性研究者採用比率の目標達成のために、部局別女性教員採用比率目標の達成・女性限定公募（金沢大学）、推進組織の設置（富山県立大学）、理系女子学生の採用強化・キャリア開発支援（YKK株式会社）などを行う。これらの取組を地域に発信し、北陸地域を牽引する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

代表機関のリーダーシップの下、連携する3機関はもとより、既存のHokuriku Women Researchers' Network (HWRN) に参画する北陸地域の教育研究機関、自治体、及び企業が密接に連携し、代表機関がこれまで培った女性研究者・技術者の育成に係る好事例を共有し、意識啓発を効果的に進めることにより、北陸地域の「ものづくり分野」における女性研究者・技術者の活躍を推進したことは評価できる。連携機関はともに、女性研究者・技術者の在職比率や採用比率、上位職登用に係る目標をほぼ達成しており評価できる。今後は、代表機関の理工系部局で実施する教員の「女性限定公募」へ優れた女性研究者・技術者が積極的に応募するよう創意工夫し、女性教員の採用を着実に進めることを期待する。

- ・**目標達成度**：連携機関はともに、女性研究者・技術者の在職比率や採用比率、上位職登用に係る目標をほぼ達成しており評価できる。また、代表機関においては、女性教授比率に係る目標の達成へ向け着実に成果が挙げたことは評価できる。今後は、自然科学系の女性教授比率の向上を積極的に図ることを期待する。
- ・**取組**：女性研究者をリーダーとする共同研究の支援、「はあざみ女性研究者賞」の創設、女性研究者が代表者として開催する国際シンポジウムの支援、機関幹部対象の意識啓発セミナーの開催、理工学系教員の「女性限定公募」等、多面的かつ効果的な取組を行うとともに、その取組

を HWRN に参画する北陸地域の他機関へ普及させたことは評価できる。

- **取組の成果**：代表機関の理工系部局において、全ての教員人事を原則「女性限定公募」とし女性教員在籍比率を上昇させるとともに、「女性限定公募」の取組を共同実施機関へ波及させたことは評価できる。研究力向上及び上位職への女性の積極的な登用に係る取組の成果として、代表機関の女性教授比率が全国の国立大学法人の中でトップクラスとなり、また、2つの共同実施機関のマネジメント層の女性が大幅に増加したことは評価できる。さらに、HWRN 参画機関において、女性学長の誕生、女性管理職の大幅な増加が見られたことは北陸地域への波及効果として評価できる。
- **実施体制**：代表機関のリーダーシップの下、各連携機関の委員から構成される「ダイバーシティ研究環境推進委員会」において実質的な意見交換や情報交換を行う、密接な連携体制を構築したことは評価できる。さらに、各連携機関が北陸地域の教育研究機関、自治体、企業をそれぞれ牽引し、ひいては北陸地域全体の女性研究者・技術者の活躍を先導する体制を構築したことは評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後は一定の自主経費を確保するとともに、「ダイバーシティ研究環境推進委員会」を継続して設置し、連携機関の密接な連携を維持しこれまでの取組を継続する計画であり評価できる。さらに、HWRN を通じ、北陸地域の「ものづくり分野」を牽引する教育研究機関や企業等へ引き続き取組の普及を進め、「ものづくり分野」の新たな成長と変革を図る計画であり評価できる。今後は、優れた女性研究者・技術者の北陸地域への定着を図る工夫を期待する。